

健康

質問

夫は75歳。肺がんで通院中です。今は抗がん剤と痛み止めの内服薬を処方されています。大きな地震が発生して避難所生活になった場合、夫の薬はどうなるのでしょうか。災害時でも処方してもらえますか。とても心配です。

避難所での薬剤治療



三村 誠二
県立中央病院
救急科部長

回答

大規模災害、特に予想される南海トラフ巨大地震では、発生1週間後の避難所生活者数は22万6500人、避難所外での避難生活者も合わせると36万26000人に上ります(冬期午後6時発生の予想)。全県民の半数近くが避難生活を経験することになります。

避難所生活で重要なことは、まず準備です。水、食料、衣類、その他の生活に必要なもの、そして日常使用している薬剤などを緊急時にすぐに持ち出せるように準備しておいてください。日頃から準備して避難所生活がどんなものか調べておくことが大切です。薬剤については、日頃から主治医と災害時の対応を相談しておくことと安心

持ち出せるよう準備を



です。処方されている薬剤がどんな種類なのかを確認しておきましょう。「お薬手帳」は処方されている薬剤の重要な情報

報です。避難所に行くときは、持参できるようにしてください。お薬手帳がない場合でも、薬袋やメモで代用できます。救護所で診察して、薬剤を処方する際にお薬手帳があると、診療、処方がスムーズに進みます。災害時の医療機関や救護所での災害処方箋では患者の自己負担はありません。がんの化学療法中の患者は、災害時に治療を継

続するかどうかの判断が必要で、医療施設に入院し、治療を継続しなくてはならない場合もあります。あらかじめ主治医と災害時の治療継続の方法や、治療内容など診療情報の管理をどうするか話し合っておくといでしょう。

災害の規模によっては、近隣の医療機関では入院患者の受け入れができなくなります。被災していない他県の医療機関に移動し、治療を継続することもあります。

県の取り組みとしては、県内で必要とされる薬剤の備蓄や、製薬会社、卸会社と提携を結び、災害時でもなるべく平時の薬剤流通ルートに戻すよう計画をしています。必要な薬剤を必要分だけ供給できるシステムづくりが重要です。支援の手は必ず差し伸べられます。だからこそ、災害時の準備、セルフケア、家族や地域での助け合いが何より大切です。(第4土曜掲載)



東日本大震災時に避難所となった万石浦中学校の保健室に設けられた救護所—2011年3月18日、宮城県石巻市(三村さん提供)

お薬手帳で処方円滑に